

	小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め
十六章	①『源氏』論(物:場 C')②作者の『心ばへ』(物:場 C')③作品(物:場 C')④准據(物:場 C')⇒からの關係:⑦が①で採用した(D1の至大化)④は、「⑤:②の中で變質し、今度は間違ひなく③を構成する要素と化した④だけ。このやり方は徹底的であつた」(D1の至大化)⇒「⑥:物語の准據」(⑤的概念F)⇒E:外部に見附かつた⑥を作者の心中に入れてみよ、その性質は一變する。作者の創作力の内に吸收され、言はば創作の動機としての意味合を帶びる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△枠):②への適應正常。
十七章	①『帚木』發端の文(物:場 C')②表現構造(物:場 C')③『源氏』といふ物語の主人公(物:場 C')④作者(物:場 C')⇒からの關係:①の②(讀者に相談しかける)は、「⑤:③を描き出す(D1の至大化)④の技法の本質的(D1の至大化)なものを規定してゐる」(D1の至大化)⇒「⑥:『源氏』といふ人物の評價」(⑤的概念F)⇒E:それ(⑤)が、⑦の⑥に直結(Eの至大化)してゐる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△枠):①への適應正常。
十八章	

